

バードリサーチ ニュース

2009年12月号 Vol.6 No.12



Phoenicurus aureus
Photo by Nagashima Hiroyuki

活動報告

ハクチョウとカモの飛来時期 ～今年はやや早めか？～

神山和夫

バードリサーチでは環境省の委託を受けて、鳥インフルエンザの防疫対策として毎月上中下旬の3回、全国の39カ所の水域で渡り鳥の飛来状況を調査しています。このデータを使って昨シーズンは調査地間の比較を行いましたが(2009年4月号参照)、今年は2年分のデータがありますので、昨年と今年の飛来時期の比較を行ってみました。

オオハク、ヒドリ、オナガの飛来は早め

初認ではなく、ある程度の個体数に達する時期を比較するため「10～11月の間の飛来数が両年とも50羽を越えた調査日」を飛来基準日と考え、オオハクチョウ、マガモ、オナガガモ、ヒドリガモが多い調査地を抜き出して比較しました。10～11月の個体数が50羽未満の調査地は比較対象から外しています。その結果、今年は昨年より飛来基準日が早めか同じだった調査地の数が多くなっていました。

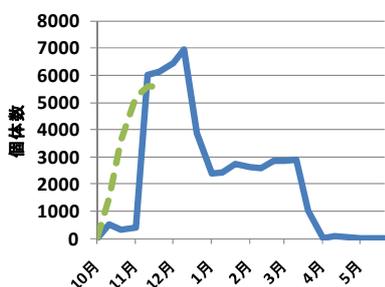


図. オオハクチョウの個体数の例(厚岸湖).
青線2008-09年、緑破線2009-10年.

表. 今年と昨年の飛来基準日の比較.

今年の飛来時期	早い	同じ	遅い
オオハクチョウ調査地数	北3 本1	北1	本1
マガモの調査地数	本3	本4 九	本3 九1
オナガガモの調査地数	本4	本1 九2	本3 九1
ヒドリガモの調査地数	本4 四1	本2 九3	本1

北:北海道 本:本州 四:四国 九:九州

オオハクチョウは、渡りの中継地である北海道の調査地の多くで昨年度より早めの飛来が確認されました(図、表)。そして越冬地である伊豆沼でも昨年より早い時期に数が増加していました。カモ類は調査開始前の9月から北海道で多数が飛来しているため、本州以南の調査地だけで比較を行ったところ、ヒドリガモもオナガガモも飛来基準日が昨年より早めか同じである調査地の数が、遅めの調査地よりも多くありました。一方、マガモだけはやや遅めという結果になりました(表)。

これから越冬期そして渡去とガンカモ類のステージが進んでいきますが、気温や積雪との関係などにも注意しながら春まで見守っていききたいと思います。



写真. オナガガモの群れ(最上川河口).

研究誌 Bird Research よい

渡辺朝一. 冬期の越後平野における水田構造からみたコハクチョウの採食環境. Bird Research 5: S11-S15

コハクチョウの採食場所の微環境についてまとめた論文が掲載されました。コハクチョウは水田でよく採食することが知られていますが、水田のどのような部分を利用するのかについて研究したものです。コハクチョウではありませんが、伊豆沼のマガンでは、越冬期前半は水田面を利用し、後半は畦などを多く利用するようになることが知られています。これは越冬期後半にはガンやその他の鳥に食べられて落穂などの量が減り、畦に生える草を食べるようになるためと考

えられています。しかし今回渡辺さんが調べた結果では、コハクチョウではそのような変化は見られませんでした。なぜ



写真. 水田で採食するコハクチョウ.

マガンのそれと違うのか、場所の特性の違いなのか、種の特性の違いなのか、今後の研究の発展を楽しみにしています。